

静岡県議会議員

田口 章

後援会  
だより

お気軽にどうぞ  
昼 053-447-3820  
夜 053-440-7100

平成 23 年 5 月 6 日

創ろう！元気な浜松 & 静岡県

# めざせ即戦力“県議田口”始動

今年の GW はラッパの音が聞こえず、ちょっとさみしかったですね…。

このように震災の影響がさまざまな分野に広がる中、5/2 から県議としての活動が正式にスタートしました。

プロ野球では新人の活躍が目につきますが、私も市議 4 年の経験を活かして、即戦力として活動できるよう努力します。

後援会だよりでは、これまで同様、県政情報や私の考え方をタイムリーにわかりやすくお伝えしていきます。

“県議田口”を今後ともよろしく願います。



## 1. 初登庁 静岡県議会

### (1) 議員定数と会派構成

静岡県議会は今回の改選で定数を 74→69 に削減しました。浜松市に比べるとまだ削減幅が小さいですが、今後、地方自治法の改定(県議会議員の選挙区の見直し)が検討されていることから、4 年後にはさらなる削減が進むと思います。

さて 69 人となった県議会の会派構成は右表のとおりです。このうち新人は 20 人。フレッシュパワーにもご期待ください。

会派	人数
自民改革会議	38 人
民主党・ふじのくに県議団	20 人
公明党静岡県議団	5 人
志士の会	3 人
みんなの党・無所属クラブ	2 人
無所属	1 人
合計	69 人

### (2) 民主党・ふじのくに県議団に入会

私は「民主党・ふじのくに県議団」に入会しました。これまでの労働組合活動の経緯を踏まえた選択です。ただ私は民主党員ではありませんので、これからも志を高く持ち、是々非々の視点で、県政にも国政にもしっかりとモノを申していきたいと考えています。

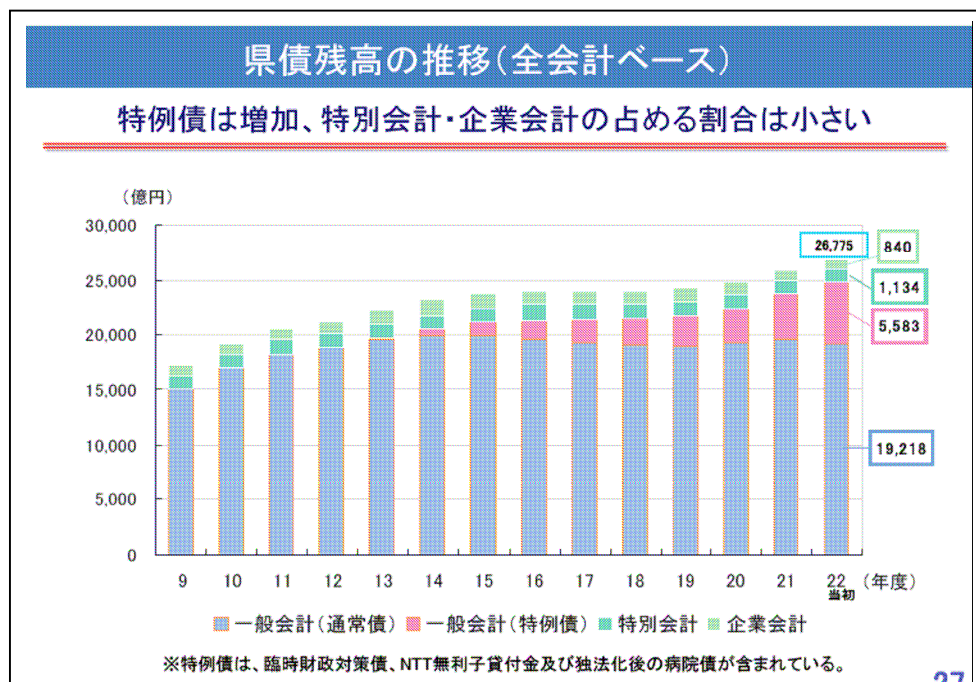
### (3) 今後の議会日程

静岡県議会は 5/20(金)に「臨時会」を開催。議長他、議会人事を決める予定です。

新メンバーによる最初の論戦となる「6 月定例会」は 6/23(木)～7/12(火)に予定されています。浜松市議会より 1 ヶ月ほど遅いスケジュールですが、今回は震災関連の補正予算など喫緊の課題が予想されます。静岡県内への経済的な影響も非常に大きいことから、中小企業支援や産業政策、観光政策などにも注目していきます。

## 2. 今後の取り組み課題

### (1) 財政健全化と情報公開



私のモットーは「子どもにツケをまわさない」。

浜松市議会での経験を活かし、さまざまな手法で財政健全化を進めます。

中でも重要なのが“情報公開”。浜松市の目線で県の資料を公表していきます。

左は静岡県が平成 22 年 9 月に公表した“総県債残高”のグラフです。

県は「通常債の上限を 2 兆円」とする財政健全化目標を設定しています。

確かに「通常債」はその範囲にとどまっていますが、

借金の総額を見ると、右肩上がりで増え続けており、22 年度 当初予算ベースの総県債残高の見込額は 2 兆 6775 億円となっています(モノクロ印刷ではグラフがわかりにくいので、ぜひブログでカラー版をご覧ください)。

現時点の決算見込では「通常債」が 19,264 億円に、また「特例債」も 5,586 億円に増えています。「特別会計」「企業会計」は資料が見当たりませんでした。総額も増えていると思われます。今後、情報公開を進め、財政状況の共有化を図っていきます。

### (2) 外郭団体等の事業検証

平成 9 年度に 38 あった外郭団体は、現在 28 団体まで減っています。その点は評価できますが、ここ数年統廃合のペースが鈍っています。また約半数が赤字となっており、経営改革は待たなしです。

県は 3/30、「行財政改革大綱」を公表し、この中で外郭団体の検証と見直しに言及しています。具体的には、3 団体を解散し 1 団体を統合、さらに 11 団体を見直す考えです。私もリストアップされた団体のほか、地方 3 公社といわれる「土地開発公社」「道路公社」「住宅供給公社」の事業や財務内容については早急に調査しようと思います。

また、「富士山静岡空港」のあり方についても勉強していきます。

### (3) 「“ふじのくに” 危機管理計画(仮称)」の策定

2 月に公表された「静岡県総合計画」では、「基本計画(H22~25 年度)」の“イの一番”に「命を守る危機管理」を掲げました。この中で、「“ふじのくに” 危機管理計画(仮称)」を策定することとし、23 年秋頃の策定に向けて検討を進めています。5/13 から「基本計画」についてのパブリックコメントを行いますので、県 HP をぜひご覧ください。

さて、今回の「基本計画」では、常日頃からの県の危機管理体制や被災時の初動対応などを定めています。…が、率直に言って「県民(住民)目線」とは言えないような気がします。

今回の被災地を見ても県民(住民)と直接かかわるのは、基礎自治体である市町です。ところがこの「基本計画」には「県と市町の役割(サポート)」や「県民へのアクション」の記載はありません。

私のミッションのひとつは「県と市町の役割分担」を考えること。県は市町への支援を講じるべきではないでしょうか。

原子力災害や津波対策など新たな課題については、今後「個別計画」として詰めていくようです。この内容についてもチェックしていきます。

### 3. 浜岡原発 視察報告

4/22 に「民主党・ふじのくに県議団」の視察に同行し、津波対策を中心に浜岡原発の施策を調査しました。

今回の福島第一原発の津波想定高は 5.5m。そこに 14-5m もの津波が来たわけですからひとたまりもありません。浜岡原発の想定津波高は 8m。見直しが必要なことは間違いありませんが、何 m まで対策をすればよいのかはなんとも言えません。

対策の柱は大きく 3 つ。ひとつは「①津波を避けるための対策」、次に「②津波を受けたあとの対策」、そして「③緊急事態への対策」です。

①のひとつに「防波壁」があります。新聞報道では「15m 以上」などと書かれていましたが、まだ正式に決まってはいないとのこと。「防波壁」は「防波堤」ではありません。波打際に 15m の堤防を造るわけではなく、高さ 10m ほどある既存の砂丘の上に、新たに数 m の壁を造るものです。基礎は岩盤に固定するので耐震性は確保できるということですが、「砂丘」そのものが地震に耐えられるのかどうかは、議論の分かれるところです。

②として、施設への浸水を防止する「防水壁」、「水密扉」などの設置があります。原子炉冷却のために重要な役割を果たす施設に「海水を取り入れるポンプ」があります。浜岡の施設は屋外にありますが、さっそく「防水壁」の設置工事をしていました。壁の高さは海面から 6m とのこと。いかがなものか……。

次に「発電機」。福島第一ではディーゼル発電機が使えなくなったことが大きなポイントでした。福島第一のディーゼル発電機が「タービン建屋」にあつたのに対し、浜岡は「原子炉建屋」にあり、防水性は福島よりは高そうです。さらに水密性の高い扉を設置するとのこと、その点は評価できます。

③も重要です。原発の緊急対策で重要なのは「止める」、「冷やす」、「閉じ込める」です。今回の福島第一では、「冷やす」ことができなくなったため大惨事につながりました。「冷やす」には「冷却系施設」の稼動と、そのための「電源確保」が重要です。

建屋内のディーゼル発電機が使えなくなった場合の想定として、原発の後背地、標高 20m 付近に予備の発電機を設置します。2012 年度の早いうちに「ガスタービン発電機」などの設置を考えているとのこと。これは必要な施策です。

また補助電源として、1 号機～5 号機それぞれに、災害対策用の発電機を設置していました。当

面はレンタル品で先々は購入配備するとのこと。先に書いたポンプを回すほどの発電量は確保できませんが、緊急的な電源として確保したものです。

さらに電源がなくなったときのために、可搬ポンプで注水を行うとのこと、配備されていました。

今回の説明は「止める」「冷やす」「閉じ込める」のうち「冷やす」が中心でした。

「止める」はこれまでのところ機能しているようなので引き続きチェックしてもらえればよいと思いますが、「閉じ込める」を想定した訓練はまだのようでした。福島のことを考えれば、万々に備えて「閉じ込める」の訓練もすべきです。

またマネジメントの基本は「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」。今回の説明は「モノ」が中心でしたが、その他の対策がわかりませんでした。質問しなかったのですが、時間がなくて聞けませんでした。

「モノ」についての感想は下記のとおりです。

「防波壁」は気休めに過ぎないのではないのでしょうか。どこまでやっても不安は尽きません。

それよりも津波被害を受けた後の対策をキチンととることが重要な気がします。

重要なのは電源と冷却手段の確保です。私には学術的な評価はできませんが、冷却手段の二重三重のさらなる確保が必要と感じました。

中部電力管内の原発依存度は 14%とのこと。現在浜岡の 4・5 号機しか稼働しておらず、火力発電で需給調整を行っているようでしたが、従来の電力需要からすると原発を止めるのは困難なようです。

「計画停電を甘受すればよい」との声もありますが、今の社会経済活動を考えたときに、中長期的なビジョンがないまま実施するのは、社会全体への影響を考えるとあまりに危険ではないでしょうか。

ただし原発の新規着工にブレーキがかかることは間違いないでしょうし、将来的には代替クリーンエネルギーの開発は不可欠です。

マスコミでは「次に危ないのは浜岡原発」との論調も聞かれます。

こうした中、浜岡原発の稼働には、相当慎重な姿勢が求められます。3 号機の再開もそうですし、1・2 号機の使用済み燃料の処理も安易にはできません。

中電職員は自信を持って安全対策の説明していましたが、自信の中にも、謙虚さをもって、真摯に取り組んでいただきたいと思います。

◎写真で振りかえる県議選



出陣式での第一声、カみすぎ…



出陣式で元県議の吉川彰さんと、4年のブランクを経ての“パトタッチ”

**19,109 票ものご支援をいただきました**



自粛ムードの中、雲をつかむような9日間の選挙戦でした。市議経験アリとはいえ“新人”に違いなく厳しい戦いでしたが、後援会のみなさまのご支援があればこそこの結果となりました。  
(公職選挙法上“お礼”のごあいさつは書けませんのでご了承ください)



ミニ集会を14カ所で開催。政策を真摯に訴えました。  
(写真は入野公民館)



選挙カーの運行自粛など苦労しましたが、毎日15カ所ほど街頭演説をおこないました。

○最近のブログから「錦タワー」(5/4)



ここは三重県大紀町。同町で行われた法事のついでに、津波対策施設の「錦タワー」を見に来ました。

この地区は、昭和19年の東南海地震の津波で死者64人、家屋全壊447戸の被害を出したところでした。

「錦タワー」は平成9-10年度に1億3855万円をかけて造られた5階建て施設で(高さ21.8m)500人

が避難可能とされています(2階以上の床面積は約230㎡でしたが…)。通常は、防災倉庫(1階)、集会施設(2階)、防災資料館(3階)として使用されており、避難しやすいように施設の外にらせん階段があります。3階の資料館には、昭和19年当時の写真があり、まさに今の三陸と同じ様子が写っていました。

今日は行政視察ではないので、話を聞くことはできませんでしたが、ここではハードだけでなく、避難訓練などソフト面にも力を入れているとのこと。

長い海岸線を持つ静岡県では、津波対策はクローズアップされる施策です。現場主義で取り組んでいきます。

【日々の活動はブログをご覧ください】

**★創ろう！元気な浜松&静岡県**

田口章  で検索

**4月の活動報告**

- 11(月) 当選証書授与式(浜松市役所)
- 12(火) 会派総会(県庁)
- 22(金) 浜岡原発視察  
退職議員説明会(浜松市役所)
- 24(日) 浜松地区メーデー
- 26(火) 青少年健全育成会常任委員会
- 27(水) 会派総会(県庁)  
放課後児童会役員会

**5月の活動予定**

- 02(木) 議会説明会(初登庁)
- 07(土) 地区社協総会  
入野地区自治連総会
- 09(月) 会派総会  
放課後児童会役員会
- 12(木)~13(金)  
地方自治経営学会(東京)
- 14(土) 青少年健全育成会総会  
地域団体連絡会
- 16(月) スズキ協講演会
- 20(金) 本会議
- 24(火) 部局説明会
- 25(水) 部局説明会
- 27(金) 自動車総連議員連絡会
- 28(土) 小学校運動会  
佐鳴湖水質調査  
浜松特別支援学校高等部体育大会
- 29(日) 小学校運動会  
老人クラブ連合会総会